

第27回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 ランチョンセミナー7

チーム医療でめざす 糖尿病性腎症の重症化予防

2022年9月18日(日)12:00～13:00 特別会議場(大阪府立国際会議場12F)

座長

岡山県立大学 保健福祉学部 看護学科

教授

住吉 和子 先生

講師

大阪公立大学大学院医学研究科

代謝内分泌病態内科学・腎臓病態内科学

教授

繪本 正憲 先生

※ランチョンセミナーへの参加は、整理券制となります。

詳しくは学術集会ホームページの

「参加者へのご案内」をご参照ください。

<http://square.umin.ac.jp/jaden27/participant.html>



チーム医療でめざす糖尿病性腎症の重症化予防

座長：岡山県立大学 保健福祉学部 看護学科
教授 **住吉 和子** 先生

講師：大阪公立大学大学院医学研究科
代謝内分泌病態内科学・腎臓病態内科学
教授 **繪本 正憲** 先生

日本透析医学会のわが国の慢性透析療法の現況（2020年末）において、慢性透析患者347,671人のうち糖尿病患者は39.5%、また、糖尿病性腎症（Diabetic nephropathy, DN）による新規透析療法導入となる患者は年間40,744人のうち40.7%を占める。今後、慢性透析が必要になる患者を減少させるには、糖尿病性腎症の発症進展予防の対策が極めて重要である。糖尿病性腎症は、その病期により1期から5期まで分類され、それぞれの病期により重要となる治療とケアは変化し、個々の患者に応じた治療対策が求められる。特に、蛋白尿を呈する症例では、腎機能低下進行が早く腎・生命予後も不良である。透析療法導入の遅延・予防の観点からは、特に腎症3期（顕性腎症期）や4期（腎不全期）における糖尿病治療とケアがキーポイントとなる。一方、近年、蛋白尿を呈さずに腎機能が低下してくる非典型的な症例の増加が報告され、糖尿病性腎臓病（Diabetic kidney disease, DKD）の概念が提唱され注目されている。

糖尿病透析予防指導管理料の算定が可能となった2012年以後、さまざまな施設で腎症重症化予防を目標とした専門診療や指導が取り組まれている。筆者らの施設においても、糖尿病専門医、腎臓専門医、糖尿病療養指導士（看護師、管理栄養士）のチーム医療により積極的に透析予防をめざした腎症重症化予防外来をおこなっている。特に、腎症3期・4期の症例に対して、積極的にチーム医療による介入指導を行い透析療法導入の遅延・予防をめざしている。

薬物治療では、近年、SGLT2阻害薬やGLP-1受容体作動薬など、腎症病期進展や腎機能低下を抑制しうる糖尿病治療薬のエビデンスも相次いで報告され、腎症重症化予防の治療が大きく進歩しつつあり、今後の腎アウトカムも改善されることが期待されている。

このような現況を踏まえて、本セミナーでは、糖尿病性腎症や糖尿病性腎臓病の概念とその現況、糖尿病治療薬の腎症における最新のエビデンス、チーム医療による腎症重症化予防指導の意義と実際について、今後の展望も含めて概説する。

— アークレイからのお知らせ —

LINE公式アカウント「検査のアークレイ（医療従事者用）」

セミナーのご案内や友だち限定のコンテンツなどを配信しています。
アークレイから発行している情報誌などの情報も定期的にご案内しています。

友だち追加は
こちらから

